

## 第五回 衛星測位と地理空間情報フォーラム

# 地理空間情報活用推進に向けての 政府の取組について

2009年 5月14日

内閣官房副長官補室 野村正史

# 1. 「地理空間情報活用推進基本計画」と「G空間行動プラン」

## i) 「地理空間情報活用推進基本計画」

→ 昨年4月閣議決定。地理空間情報の活用推進に係る施策の基本的方向を示した中期計画。

## ii) 「地理空間情報の活用推進に関する行動計画」

→ 地理空間情報の活用推進に係る具体的施策のリスト。愛称は「G空間行動プラン」。

## iii) 「地理空間情報」は新しい政策概念

→ 様々な事物、事象を共通の座標軸(x,y,z,t)により相互に関係付けることで情報に付加価値を与え、民間・行政のサービスを高度化。

## iv) 「地理空間情報」の積極的な展開

→ 経済対策、成長戦略に「G空間行動プラン」を積極的にエントリー。様々な広報媒体も活用してPR。

## 2. 地理空間情報産学官連携協議会の設立

### i) 非常に間口の広い「地理空間情報に関する施策群」

→ 固有の政策目的を有する様々な施策を「地理空間情報」という新たな政策概念で横串をさした「G空間行動プラン」。

### ii) 効率は良いが穴も多い「タテ割り」

→ 行政は基本的に「官官(つかさつかさ)」の積み上げ。課題を絞り込めばB/Cは向上。  
一方で、隙間や穴を埋められない「タテ割り」アプローチ。

### iii) 隙間や穴を埋めることで加速する「地理空間情報の活用推進」

→ 行政のタテ割りとは異なった目線で今後の研究開発・技術開発に係る施策のあり方について検討を行う体制が必要。

### iv) 実験的実践の場である「地理空間情報産学官連携協議会」

→ 産・学・官が対等の立場で参加し、知見を結集させる「フォーラム」。ほとんどの府省が横断的に連携し、産と学が加わる形の協議会は先進的と思料。

# 3. 地理空間産学官連携協議会の現況

## 1)「共通的な基盤技術に関する研究開発WG」

### i) 急がれる「プライオリティの明確化」

→ フロンティアを切り開いていくためには、効率的な資源投入を可能とする「順位付け」と「工程表」が不可欠。

### ii) 産・学・官共有の宝となる「研究開発マップ」

→ 「地理空間情報の森」は、間口も奥行きも広くて深い。その中で迷子にならないための「見取り図」は、この分野に携わる者が手放すことの出来ない道標。

## 2)「防災分野における地理空間情報の利活用促進のための基盤技術に係るWG」

### i) 「災害リスクの見える化」を阻む壁

→ 「ハードによる封じ込め」から、「ソフト対策を含めた被害軽減」へと舵を切った防災対策。情報の共有と活用は生命線。一方で、災害リスク情報の現状は、データ精度、フォーマット等が不統一で統合的な利用が困難。

### ii) 多様な主体による質の高い災害リスク情報の提供のために

→ WGの成果を直接に活用しつつ、災害リスク情報に係るデータ整備と利活用の促進に必要な「規格」と「運用ルール」を構築。

## 4. 主な施策の進捗状況

- (1) 準天頂衛星システム計画
- (2) 基盤地図情報の電子的整備とインターネットによる提供

# 5. プロモートの推進

- (1)「地理空間情報」、「G空間」の名称・概念の周知・普及
- (2)「地理空間情報EXPO」の開催